

各位

会社名 株式会社シーエーシー
 代表者名 代表取締役社長 光山 治雄
 (東証1部 証券コード 4725)
 問合せ先 常務取締役 神谷 敏
 責任者
 (電話 03-3263-7241)

2001年12月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社(株式会社シーエーシー、以下同じ)は、2001年10月30日に発表した2001年12月期通期(2001年1月1日~12月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 2001年度通期業績予想の修正(2001年1月1日~12月31日)

【連結】

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	35,100 (27.2%)	3,350 (48.1%)	570 (53.1%)
今回修正予想(B)	35,200 (27.5%)	2,820 (24.7%)	240 (80.2%)
増減額(B-A)	100	530	330
増減率	0.28%	15.8%	57.9%
(ご参考) 2000年度通期実績	27,598 (19.9%)	2,261 (39.5%)	1,214 (57.3%)

()内のパーセント表示は対前期比増減率です。

【単体】

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	32,260 (24.4%)	3,120 (54.3%)	500 (53.4%)
今回修正予想(B)	32,360 (24.8%)	2,600 (28.6%)	210 (80.4%)
増減額(B-A)	100	520	290
増減率	0.31%	16.7%	58.0%
(ご参考) 2000年度通期実績	25,932 (14.7%)	2,021 (42.7%)	1,072 (70.5%)

()内のパーセント表示は対前期比増減率です。

(注)上記業績予想には、退職給付会計導入による会計基準変更時差異(連結1,917百万円、単体1,827百万円)の全額一括償却を見込んでおります。

2. 通期業績予想修正の理由

当年度中間期（2001年1月～6月）においては、前年度後半からの金融機関の統合・再編を中心としたシステム開発及び再構築需要の大幅な増加、製造業やサービス業における旺盛な情報システム投資を背景とした需要拡大に加え、当社の積極的な受注拡大策も相俟って、システム構築サービス、システム運用管理サービスともに増収増益を達成しました。

その後、当社第3四半期連結業績（2001年7月～9月）を発表いたしました。金融機関における不良債権問題や株安など国内景気はデフレ色がいつそう強まってきており、加えて9月の米国同時多発テロに起因する国際政治経済の先行き不透明感、世界景気減速への懸念等、当社を取り巻く経営環境は第3四半期までの流れとは異なった状況になってまいりました。

このような状況下、当社第4四半期に入ってから金融分野を筆頭に、顧客における情報投資意欲は弱含みの様相を呈しており、10月以降は売上、利益とも予定していた会社計画を下回ってきております。

（1） 連結売上について

システム構築サービスにおいては、金融分野でのシステム統合・保守等の継続案件の縮小、ネット証券及びERP分野での計画中断、システム運用管理サービスにおける受注案件の先送り等がありましたが、一方でハードウェア及びソフトウェア販売が予想以上に伸長していること等により、ほぼ計画通りの売上高を見込んでおります。

（2） 連結損益について

以下の要因等によって、業績予想値に対して利益減少を見込んでおります。

- ・ 金融分野における継続案件（システム統合・保守）の縮小、計画中断案件の発生、新規案件の受注確定時期の遅れ等により、一部で不稼動が発生していること
- ・ 来期ビジネス対応へ向け、一定数の外注要員を戦略的に抱えていること
- ・ ハードウェア及びソフトウェア売上の増加によって全体的な利益率が低下していること
- ・ 新規ビジネス展開へ向けマーケティング及び構造改革活動強化に注力していること

上述の経営環境変化、及び損益悪化要因等を考慮し、現時点で見直した結果、当年度の連結業績については、前期実績比較では売上高（+27.5%）、経常利益（+24.7%）ともに増加するものの、前回発表の利益予想数値を下回るものと予想され、下方修正するに至りました。

3. 今後の施策

今期から来期へかけては、情報化投資の全般的な減速感とともに、特に金融分野における環境悪化が想定されますが、当社は、既に進行中のものも含めて以下の施策を確実に実施、実行し、中期的な業容拡大へ向け積極的に取り組んでまいります。

- (1) マーケティング強化による ERP ビジネスの拡大推進
- (2) 金融の得意分野である年金系ビジネスにおける、新規顧客への拡大展開
- (3) 外資系銀行や地方銀行等、金融分野における新規サービス展開と積極的なマーケティング
- (4) 特化分野である製薬業における、R & D分野をはじめとするサービス拡充と新規顧客開拓
- (5) システム運用管理サービスにおける、S A P運用、ビジネス・プロセス・アウトソーシング (B P O) 等の専門性の高いサービスの更なる拡大
- (6) 顧客と一体となった各種研究会等の継続実施によるビジネス機会の創出
- (7) 情報子会社等を対象とする M&A 戦略の積極推進
- (8) 中国子会社の陣容拡大と活用によるコスト競争力強化

なお、2002 年 12 月期 (2002 年 1 月 1 日 ~ 2002 年 12 月 31 日) の経営計画は現在策定中ですが、来年度においては、主要顧客群への深耕に加え新規顧客、新規ソリューション展開へも積極的に取り組み、サービス品質の更なる向上と、着実な事業拡大を図ってまいります。

以上

* 本資料における業績の見通しは、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における内外の状況変化、あるいは見通しに内在する不確定要因や、潜在的リスク等によって、実際の業績は見通しと異なる場合があります。

お問い合わせ先： **株式会社シーエーシー**
IR 室 (島田、井上)
TEL : 03-3263-8955
E-Mail : ir@cac.co.jp